No60　平成 26 年夏号

道　南

北海道道南会会報
No60　平成 26 年夏号

発　行　2014 年 8 月 1 日
発行所　北海道道南会事務局
連絡所　茨城県取手市西
1-6-C-907
TEL&FAX　0297-74-7576

函館の今昔

北海道道南会会長　薬袋　泰

今年は異常気象により各地に記録的な集中豪雨、雹、台風等による甚大な災害等が発生しております。愈々、鬱陶しい梅雨も明け、ギラギラとした暑い夏を迎えておりますが皆さまにはこの暑さに負けず、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年の新年総会・懇親会は近年に無い大雪により交通機関が麻痺状態となり、会員の皆さまには大変な中でのご出席を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。また、止む無くご欠席された方々にも金銭的なご負担をお掛けすることとなり、ご協力を賜りましたこと併せて厚く御礼申し上げます。

待望の北海道新幹線も新駅名が「新函館北斗」に決定し、平成28年3月開業に向けて着々と工事が進められております。所要時間も東京から約4時間と大幅な短縮となり、東北地域、さらには北関東や首都圏等との間で、観光やビジネスなど様々な分野における交流拡大が見込まれ、地域の活性化への期待が高まっております。

この度、神山茂著作集　第2集の「大門」その歴史・函館盛り場盛衰記その1を読んでその歴史の深さに感銘を受け、その一部を紹介したいと思います。

函館では、だいもんまえ（大門前）とかいって、おうもんまえとか、おうもんどうりとはいわない。これは呼びならわしであろうが、そう読んだ方が言い易いせいかも知れない。

「おうもん」というのは廓の惣門を指していうので、「だいもん」ではない。「だいもん」と発音すると、耳に響いて調子がどうもよろしくない。函館で大門が出来たのは大森町のものが最初ではなく、安政時代に山之上町に出来た官許公認の廓の惣門を大門と呼んだのにはじまる。そのことは、いろいろ当時の記録にも詳しい（万延元年松浦千代兵衛の書き残した「蝦夷道中日記」の中、3月28日の条に記している）。

星移り月変わって、山之上町の廓などは、今は跡形もなく、その後に栄えた台町や蓬莱町の廓でさえも、今ではもう過去の歴史の中に没してしまった。

そして、函館の街は、西の方から東へ東へと延びてきた。北海道の奥地が開拓されるのに従って、津軽海峡を渡る荷物や旅人も多くなって来て、海峡には連絡船が走り、若松町には停車場や海陸連絡の桟橋が設けられてきた。明治40年の8月には大火事があって、函館の大半を焼き払い、台町や蓬莱町の廓を焼いてしまった。そしてこれを移したのが、大森町の町外れであった。その頃、大森町のこの界隈は一望の砂原で凸凹があり春秋の候には、ところどころに大きな水溜りが出来ていた。この砂原を整地して設けた大森遊郭は函館の東南に当たっていたから「辰巳の里」と一部の人々に言われていた。四方を黒板塀で囲み、今日の大森交番の処に大きな門が建てられていた。いわゆる「おおもん」であるが、函館の人々は単に大門「だいもん」と呼んでいたので、そこから電車の停留所近く迄を「大門前」（だいもんまえ）と称えられるようになった。その頃は、松風町の停留所を大門前停留所と呼んでいたが、婦人矯風会が水電会社に改名を申し入れたこともあり、何時とはなしに廓も廃絶したので、その名も今日のようになってしまった。「大門通り」とか「大門広小路」とか言うのは未だにその頃の名残りである。

道南会夏季懇親会は、9月13日（土）ホテル・ラングウッドで開催されますが、今年は、講演会と懇親会の2部構成で行います。1部では講師として松田昇道南会顧問をお招きし、「演題・昭和の検察を語る（ロッキード事件を中心に）」と題してのご講演を予定しております。多くの会員の皆さまのご出席をお願い申し上げます。

旧函館区公会堂

函館市便り

函館市長　工藤　壽樹

【はじめに】

北海道道南会の皆様におかれましては、日頃から、函館市勢伸展に特段のご支援・ご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴会におかれましては、昭和35年の創立以来、50年以上の長きにわたり、「ふるさと道南」を心の絆として会員相互の交流と親睦を深め、固い結束のもと、幅広い分野において活発な活動と郷土発展への貢献を続けられ、今日のご隆盛を築かれておりますことは、薬袋会長をはじめ歴代会長、役員、会員の皆様の一方ならぬご努力の賜と存じ、心から敬意を表します。

さて、現在、我が国においては、政府による大型の経済・金融政策の推進等により、6四半期連続プラス成長となるなど、経済の回復基調が続いておりますが、消費税率引き上げに伴う反動への対応や経済成長につなげるための成長戦略の強化、経済再生と両立する財政健全化などが課題となっております。

特に、国の未来像に係る課題として、人口急減・超高齢化社会への対応が求められており、今後、国において様々な政策が進められようとしております。

本市においても、平成22年までの25年間の人口減少率が19％となり、全市域が過疎地域指定を受けたところでありますが、将来に向けて「函館再生」をいかに果たし、活力を生んでいくか、市民の叡智を結集し、まちづくりへの果敢な挑戦が求められております。

このような状況の中で、当市では、長らく停滞を続けてきた函館の明日を変えるため、「経済の再生」と「財政の再建」を最優先課題として各般の施策に取り組んでおり、平成27年度末の北海道新幹線開業を目前に、地域経済は着実に持ち直してきております。

函館再生に向けた好機となる北海道新幹線の開業効果を最大限地域に波及させるため、これまで以上に、国内外での観光客誘致に向けた各種プロモーションを実施しているほか、「中心市街地活性化基本計画」に基づき、駅前・大門地区から本町・五稜郭・梁川地区までの区域において、街そのものの魅力をさらに高め、歩いて楽しくなる街を目指し、街並みの整備や公共交通の充実、民間事業者の再開発事業への支援などの取り組みを進めております。

【北海道新幹線新函館開業対策】

官民連携組織である「北海道新幹線新函館開業対策推進機構」においては、「ようこそ！はこだてへ。」をキャッチコピーに掲げた啓発ポスターや街頭フラッグを市内各所に掲出し、ＰＲ活動に努めているほか、当市では、青森市、弘前市、八戸市と「青函圏観光都市会議」を立ち上げ、青函地域における広域的な連携を図るとともに、北関東や南東北などの新幹線沿線をターゲットとした「函館キャンペーン」を集中的に展開しております。

とりわけ、北海道新幹線に関する記念イベントにつきましては、開業前・開業時のみならず、開業後にも開催することとしており、開業に向けた機運の醸成を図り、あわせて賑わいを創出するとともに、地域の魅力を広く全国に発信し、新幹線を利用した誘客を促進するなど、交流人口の拡大を図っていきます。

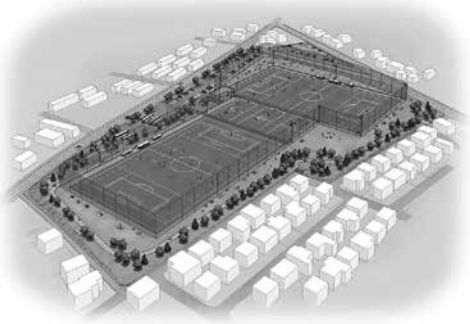
一方、「函館駅前・大門地区」では市街地再開発事業が行われており、旧和光ビルは、商業施設や分譲マンションのほか、3階から4階までは公共施設として「はこだておもしろ館」と「子育て世代活動支援プラザ」を整備いたします。

「本町・五稜郭・梁川地区」においても、旧五稜郭グルメシティの建て替えを行い、商業施設や公共施設、分譲マンションの複合ビルとなる予定であり、公共施設として、多目的ホールや若者が集えるスペースを備えた「市民交流プラザ」を整備することとしております。

このほか、緑の島を大規模なイベントに対応可能な多目的広場とする整備を進めており、最大5、000人を収容できる大規模コンベンション・スポーツ大会対応型施設「函館アリーナ」は、一定期間の長期滞在が見込める各種学会や大会などＭＩＣＥ事業の推進を図る一方、サッカーやラグビーなど市民の利用をはじめ、今まで函館での開催が困難であった大規模スポーツ大会や合宿などにも対応できる「函館フットボールパーク」の整備が進められ、サッカー場が3面から5面、ラグビー場が1面から3面と大きく拡大し、いずれも平成27年8月にオープンする予定となっております。

さらに、函館朝市では産直コーナーやフードコートを取りそろえる「函館朝市ひろば」が本年4月にオープンし、多くの市民や観光客でにぎわいを見せております。

また、三方を海に囲まれた地理的優位性や海と共に発展し、海に関する研究機関や企業が集積している地域特性を生かし、函館を「国際的な水産・海洋に関する学術研究拠点都市」とするため、平成15年3月に「函館市国際水産・海洋都市構想」を策定し、本年6月には「国際水産・海洋総合研究センター」が供用を開始いたしました。関係機関と連携した研究開発などによる新技術・新産業の創出はも



函館フットボールパーク

とより、企業誘致や特産品の販路拡大、農業・漁業の振興に関する取り組みなどを多角的に進め、「経済の再生」を目指しております。

このほか、クルーズ客船が続々と来函し、本年は38隻が入港予定となっており、昨年度の入港実績14隻から大きく数を伸ばしております。旅客船のふ頭が函館市中心部から遠いことや旅客船の大型化が進んでいることから、ＪＲ函館駅近くに旅客船ふ頭の整備を検討してまいりたいと考えております。

平成35年度を目標年次とする新たな観光基本計画では、北海道新幹線開業を見据え、観光入込客数を５５０万人、外国人宿泊者数を30万人とすることなどを目標としておりますが、昨年の観光入込客数は、ＪＲＡ函館競馬の長期開催、本市出身の人気ロックバンドＧＬＡＹの野外ライブのほか、函館～台北線の定期便利用客が好調に推移したことなどから、観光入込客数は約４８２万人、外国人宿泊者数は約29万人となっており、目標に向け順調に推移しております。

クルーズ客船

【五稜郭築造１５０年】

さて、函館山と並び、函館を代表する観光地である五稜郭は、函館の歴史とともに歩んでおり、１８６４年６月15日に北の守りの拠点として築造されてから、近代日本の幕開けとなる箱館戦争、明治維新の激動の時代を経て、今年、１５０年という節目の年を迎えました。

また、五稜郭築造の前日の６月14日には、同志社大学の創立者である新島 襄が函館から脱国してから１５０年、さらにペリー来航１６０年という函館の歴史上でも大きな節目の年を迎え、それぞれの記念式典や記念事業を行い、その節目を祝っております。

特に、五稜郭築造１５０年祭につきましては、「五稜郭おもてなし隊」による公園内ガイド・記念撮影や箱館戦争の戦闘シーンを再現するなど様々なイベントが催されており、さらにリトファスゾイレと呼ばれる円筒形歴史展示物を、五稜郭をはじめ主要観光地に配置し、市全体を歴史資料館として展示するという新たな手法にも挑戦しております。去る６月15日には、世界記録に挑戦するイベントが開かれ、約１、５００人が手をつないで、世界一長い人の鎖をつくり、世界記録達成の瞬間が五稜郭で生まれたところでございます。

ギネス記録達成

【今後への課題】

時代の転換期に直面している今こそ、函館のまちの未来に展望を開く挑戦を続けなければなりません。こうした函館再生に繋げる各般の取り組みとともに、市財政の健全化も大きな課題となっております。

今後、限られた財源のなかで創意と工夫を持って最大限市民福祉の向上に努め、「活気に満ちて、誰もが幸せに暮らせるまち、函館」を目標とし、このまちを、次世代の子どもたちに、心から誇れるまちとして継承していきたいと考えております。

市民が安心して暮らすことができるまちづくりのため、日吉４丁目団地跡地において、子どもからお年寄りまで、障がいの有無に関わらず、だれもがいきいきと希望を持って暮らせる「福祉コミュニティエリア」の整備に向け検討を行っており、生活圏・経済圏を共にする18市町での定住自立圏の形成に向けた連携を図りながら、加速する少子高齢化を見据え、ドクターヘリの運航をはじめとする医療、教育、保健、福祉など各分野にわたった取り組みを進めてまいります。

まちづくりは、一朝一夕でできるものではなく、また、市役所だけでできるものではありません。この函館のまちに暮らすすべての市民や企業、各分野で活動する様々な団体などが、20年後、30年後の理想とする都市像を共有し、それに向かって力を合わせて取り組んでいく必要があります。また、将来のまちがどうなっているかは、今を生きる私たちが大きな責任を負っております。

このことから、大間原子力発電所については、自治体として初めて、建設差し止めを求める訴訟を提起いたしました。福島第一原子力発電所の事故処理も未解決のままに、函館市から最短で23㎞という距離にありながら、建設の同意を得ることもなく、一方的に地域防災計画や避難計画を定めることを義務付けられるのは到底納得できるものではありません。市民をはじめ全国から多くの応援の声や寄付が寄せられており、このように多くの支援者がいることは大変心強く思っているところであります。

今後も、道南地域の安全のため、また、これから生まれてくる将来の世代のため、大間原発の建設差し止めを訴えていく所存でございます。

港まつり

【おわりに】

これからも、地域経済の活性化はもとより、保健・医療・福祉・教育などの各分野にわたる施策・事業につきましても、鋭意推進してまいりますので、皆様におかれましては、これまで以上のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北海道も夏本番を迎え、函館を代表する夏のイベント「函館港まつり」、道南や日本各地、海外の姉妹都市からもおいしいグルメが集まる「はこだてグルメサーカス」、約４、０００人ものランナーが函館市内を駆け巡る「函館ハーフマラソン」などイベントが盛りだくさんとなっておりますので、北海道道南会の皆様のお越しをお待ち申し上げております。

結びに、北海道道南会のさらなるご隆盛と会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。

上ノ国町の紹介と最近の動向について

上ノ国町長　工藤　昇

はじめに

北海道道南会の皆様におかれましては、日頃より郷土道南の発展並びに上ノ国町勢伸展に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

北海道道南会は、半世紀を越える長きにわたり、ふるさとを絆とし各界各層において、幅広い分野で活発な活動を展開され、ふるさとの発展に多大な貢献を続けられていることに対しまして、深甚なる敬意を表します。

また、この度は薬袋会長様のご厚意により、上ノ国町の最近の動向など本町を広く紹介する機会を与えていただきましたことに厚くお礼申し上げます。

上ノ国町の紹介

上ノ国町は、檜山振興局管内の最南端に位置し、北部を流れる天ノ川流域に市街地と農業集落、日本海沿岸に漁業集落を形成しています。15世紀には松前藩の祖、武田信広が夷王山（いおうざん）地区に山城「国指定遺跡　上ノ国館（勝山館）」を構え、日本海北方交易の拠点として繁栄したことから、町内には北海道最古の寺院「上國寺」、民家「旧笹浪家住宅」など多数の歴史的遺産を有しております。

本町の産業は古くから農業と漁業を中心に発展して参りました。農業については、水稲を中心に補完作物として「きぬさやえんどう」を推奨し、現在では、全道トップクラスの生産量となっています。また、漁業については、捕る漁業を中心としていましたが、近年の温暖化の影響で漁獲量が低迷していることからアワビ・ウニ・ナマコの種苗放流により前浜資源の増大に努めています。

観光客で賑わう道の駅「もんじゅ」

観光面では、全道の道の駅絶景部門で第1位となった「日本海情報交流館　もんじゅ」を中心にし、約500種の山野草が咲き乱れ、エゾヤマツツジの名所でもあり日本海沿岸を一望できる夷王山地区の歴史遺産など多くの見どころがあり、四季折々の色彩感あふれる美しい自然にも恵まれています。また、サウナ、岩盤浴などに使われている天然鉱石「ブラックシリカ」の日本唯一の産地として知られています。

また、本年3月には、夷王山に隣接している八幡牧野内に民間企業による風力発電所が完成し壮大な景色を楽しむことができます。

最近の動向

上ノ国町が取り組んでいる施策等をお知らせしたいと思います。

農業については、後継者育成を図りながら、圃場の整備、生産機材への助成等を実施し、足腰の強い農業づくりに努めています。漁業については、「捕る漁業」から「育てる漁業」への変革を進め、活魚での出荷を可能とした施設の整備を図り、流通を有利に展開したブランド化を進めています。また、農業漁業者等が地域の食文化を生かした特産品を開発し販売できるよう道の駅「もんじゅ」に物産センターを開設したところです。皆様のご支援もありまして、物産センターの売上は年々増加し、生産者のやる気を助長しているところであります。

また、平成21年から高校生までの医療費の無料化を実施しているほか、本年10月からは保育所利用料の無料化、小・中学校の給食費無料化など、全国でも類を見ない子育て世代を支援する施策を実施し、若者が子育てしながら安心して生活できる町づくりを進めています。

重要文化財笹浪家住宅

むすびにあたり

日本の人口が２００５年をピークに減少に転じ、全国的にも過疎化が進んでおり、上ノ国町も急激に進んでいる少子高齢化と過疎化の厳しい現実にさらされています。

私たちは、この現実をしっかりと受け止め、子供や孫の夢ある未来を拓き、未来を創り上げるために邁進して参りますので、これまで以上のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様におかれましては、道南へ帰郷された際には、是非上ノ国町へ足を運んでいただき、本町の豊かな自然環境と美しい景観がもたらす一時の安らぎに包まれ、都会の喧騒を忘れて頂ければ幸いにございます。

最後になりますが、北海道道南会のさらなるご隆盛と会員の皆様のますますのご活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。

幡牧野内風車群

五稜郭は日仏友好の証(1)
測量開始までの経緯

元函館市史編纂室長　紺野　哲也

現在「五稜郭」の名前は世界的にも知名度を高めていると思う(昭和46年10月に函館に来て、全くこの史跡の存在さえも知らずに初代の専任管理担当者となった私としては、若干面はゆい思いがするが)。この「五稜郭」最初からこの名称で、築造が始まった訳ではない。

「村垣淡路守公務日記」(大日本古文書『幕末外国関係文書』附録４所収)の安政４(１８５７)年５月16日の条に、「亀田御役所并土塁地所の分間として今日より武田斐三郎、福田作太郎相越す」と、記されているとおり、「五稜郭」の工事はこの日開始された。

「五稜郭」の正式名称は、「亀田御役所土塁」であった。今年が五稜郭築造１５０周年ということで、函館市ではいろいろな催しが開催されている。「五稜郭」の中に箱館奉行の役所(奉行が執務する所はすべて御役所で、奉行所という言い方は簡略的な呼び名)が一応できて、当時の在勤箱館奉行小出大和守秀実が執務室をここに移した元治元年(１８６４年)６月15日から数えて１５０周年ということになる。

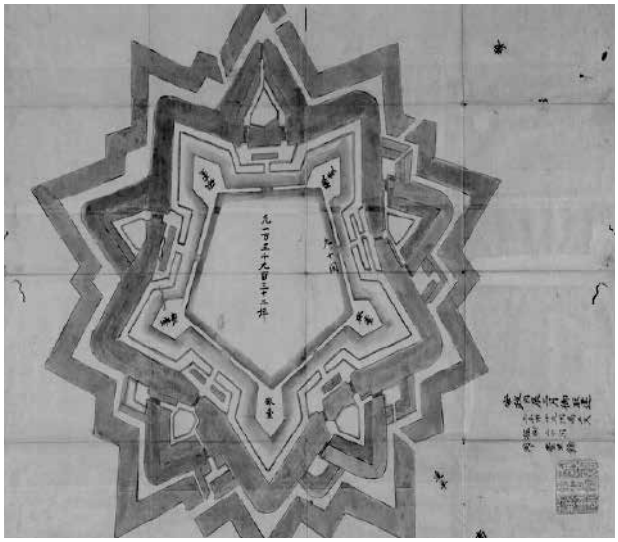
今回はこの日この測量開始の日にいたるまでの経緯を纏めてみる。

※注・分間とは、三省堂「大辞林 第二版」よれば、街道などの距離・高低などを測量することとある。

この企画の最初の発案者は堀織部利熙で、嘉永７年９月に上申したとされる「箱館表御役宅支配向住居向之儀ニ付申上候書付」に役所役宅を移転すべきではとの意見を述べていることが出発点であった。この書類は、「蝦夷地御開拓諸御書付諸伺書類」中に収録されている書類で、関係書類では唯一「進達の日限できず、寅(嘉永７年)９月中か」との注が付されている書類で、編集者が前後の関係から、この注を付したものと思われる。

ここで署名堀織部の略歴を纏めておく。

堀利熙は、通称織部、箱館奉行となった時織部正となる。父は大目付の堀利堅、母は林大学頭衡(たいら)(号述斎)の娘で、母の兄が鳥居耀蔵、母の弟が林大学頭𤋮(あきら)(号復斎)で(林𤋮はペリーと和親条約を結ぶ際の首席全権)、母の妹の子が岩瀬忠震(外



五稜郭当初設計図か　函館市図書館所蔵

国奉行誕生の際同時に外国奉行となる）である。

堀利熙は、嘉永6（1853）年5月14日に徒頭から目付に昇進し、6月7日に海防掛となっている。海防掛というのは仮称で正式名称は「海岸防禦御用掛」といい、外国奉行の設置に伴い廃止されるまで、外交事務を担当する掛であった。ペリーが最初に浦賀沖に現れたのが、嘉永6年6月3日午後5時（サミュエル・モリソン著「伝記ペリー提督の日本開国」より）であるから、その4日後に堀利熙は外交事務担当の一員となったのである。

ペリーの申し出書類を受け取った幕府は、老中首座阿部伊勢守正弘の決断で、7月に米国通商許可の諮問、8月に米国国書に対する所見要請を、大名、幕臣等に行ったが、堀利熙も上陳書を提出している。次いで8月28日に「内海台場（品川台場）普請及大筒鋳立掛」に、勘定奉行松平河内守近直・同川路左衛門尉聖謨・勘定吟味役竹内清太郎保徳・韮山代官江川太郎左衛門英龍ら共に任命され（翌年嘉永7年11月に品川台場が竣工し関係者はその労を賞せられている）、11月2日には、勘定奉行石河土佐守政平・同松平河内守近直・勘定吟味役竹内清太郎保徳と共に大船製造掛に任命され、12月16日にはペリーの再来（外艦浦賀渡来の際）に備えた応接掛にも任命されている（大目付井戸石見守弘道・町奉行井戸対馬守覚広・目付鵜殿民部少輔長鋭と共に）。

しかし、長崎で行っていた露国使節プチャーチンとの交渉（露使応接掛筒井肥前守政憲・同川路左衛門尉聖謨）が、翌嘉永7年に入って纏まらずに、プチャーチンは再来を告げて長崎を去ったことを知った幕府は、ロシアと異国境を接する北蝦夷地（唐太）の調査が急務となったので、堀利熙を「松前蝦夷地用掛」兼務とした。この時相役村垣与三郎範正は、既に賄頭ら勘定吟味役に昇進、「海防掛松前蝦夷地用掛」を兼ねており、二人に下僚を北地へ先発させよとの命令も出された。2月28日、露使応接掛筒井政憲（長崎からの帰府挨拶）と堀利熙・村垣与三郎範正（2人は蝦夷地調査への赴任挨拶）が同時に江戸城に登城し、意見（唐太定界に関し）を交わしている。

二人は5月に松前に渡り、堀利熙は28日宗谷に到着、6月12日に北蝦夷地久春古丹へ渡航、北緯50度付近を調査し帰路に就く。二人が箱館に戻る前の7月21日に堀利熙の箱館奉行任命（奉書紙に書かれた任命辞令書は、帰路途中の彼に届けられたことは、「村垣淡路守公務日記」に記載があります）と、村垣与三郎範正への帰府を命令が発せられる。

箱館奉行役所正面　現在

7月29日に村垣与三郎範正が東蝦夷地の検分を終えて箱館に帰着。堀利熙は8月20日に帰着し、蝦夷地経営の今後について打合せをして、堀利熙は箱館の在勤奉行となり、村垣与三郎範正は江戸に戻った。二人の復命書が幕閣に提出されたのは10月28日で、内容は蝦夷地踏査状況報告と、東西蝦夷地を直轄をとすること、北蝦夷地の日露国境は暫く確定せずにロシアと協議すべきことを建議したものであった。

先の「箱館表御役宅支配向住居向之儀ニ付申上候書付」によると、箱館は海上に突き出た孤山（箱館山）に在る湾港を抱くようにした港町で、町外れから亀田村までは、幅300間ばかりの沙地20町程が続いているだけなので、東西両側の海の一方から軍艦が砲撃すれば、全く孤立する場所（不要害之地）であるから、役所は亀田、有川辺りに移した方が良いと述べており、村垣与三郎と相談したところ、同意とのことであったとの上申で、まだ亀田の地でとの方針を示して上申したわけではなかった。

次いで、12月3日に役所移転の稟議書（この書類は竹内下野守と堀織部正連名）を直接老中阿部伊勢守正弘へ提出した9日に「すべて見込之通取計い、猶具体策を取調る様」と老中からの指示書が下った。即刻「承付書」を堀織部正名（「承付書」というのは、指示を承知した旨を伝える書面）で老中に提出している。この為、『維新史料綱要』には、「9日、箱館奉行竹内保徳・同堀利熙、箱館の防備を論じて庁舎を亀田「箱館の北郊」附近に移すの案を幕府に稟す」と整理されている。

眺望（五稜郭跡）

翌安政2年5月2日、役所移転の具体策、「箱館表御役所御役宅向場所替普請奉伺候書付」（この書類は堀織部正名）を提出、5月30日に「伺之通相心得」と普請承認の指示が下り、「仕様絵図面とも早々取調」との指示が付いていた。この書類には「土塁」等の文字は全くなかったのである。

（続く）

はこだて人物誌⑧
杉浦　嘉七

道南会会員　沢株　正始
幸小学校出身

函館（箱館）の古地図をみると、幕末から明治初年にかけての函館の版図はきわめて狭く、函館山のふもとからほぼ西浜一帯（現ベイエリア辺）がメインで、今の駅前あたりまで行くと家並みもぐっと少なくなります。谷地頭のほうもまだ閑散としており、やはり西部地区から発展していったという状況がほぼ見てとれます。

明治初年の函館戦争は渡島半島南部の、江差・松前側から恵山側の両方にわたり、北は森・大沼辺より箱館まで、という広範な舞台で繰り広げられましたが、結局、函館山麓にあった奉行所と五稜郭との連絡が絶たれた時点で榎本軍の敗北が決定的になりました。

奉行所とともに幕府側のもう一つの要衝は現函館ドックのある場所に築かれた弁天台場で、このため西部地区を中心に戦いは凄絶をきわめ、市民とくに弁天を中心とする地区の被害は甚大なものでした。「海陸数10ケ所の戦に、晴日なりしが、火薬の煙突に棚引、天地是が為に朦朧たり」（『函館市史』通史編第2巻）との表現のごとく、砲台への兵士の放火により800戸以上が灰燼に帰したと伝えられます。

杉浦　嘉七

函館は風が強く、水の便が良くなかったことなどから大火が多く、そのたびに被害復興が大きな課題となっていましたが、函館戦争後の市街地復興について具体的なことはあまり分かっていないようです。ただ、このときの被害からの復興功労者として伝えられている1人として、杉浦嘉七の存在が大きかったといえます。

杉浦は、北海道最初の銀行創立者として、あるいは函館区の初代区議会議長、函館商工会の初代会頭など、近代函館発展の歴史の草創期の立役者として名が残されていますが、その活躍の前、明治7年に、函館戦争で大きな被害をうけた弁天町の復興に尽力したことがすでに伝えられています。すなわちこの時、弁天町総代や区役所の依頼に応じ私財を投じて、西浜町の海中に7，219坪の埋め立て地を作り、西部地区復興発展の基礎を築いたことが記録されています。

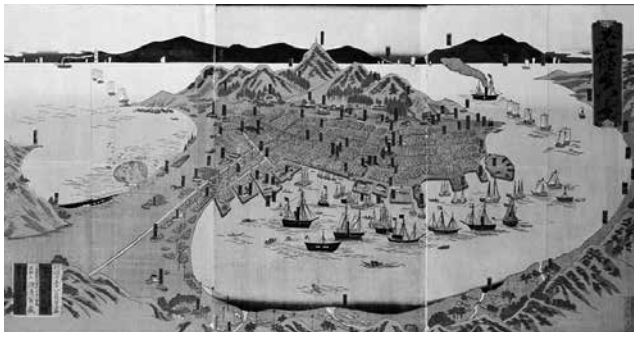
ちなみに弁天町の名は江戸の寛政年間にすでに町名として存在しています。当時、函館奉行が戸数統計上所管した町名としては、このほかに大町、内澗町、仲町、神明町、大黒町、山ノ上町、地蔵町、鰊澗町、大工町などがありました。

杉浦の家系は屋号を福島屋といい、代々、十勝幌泉で場所請負人を業とし、日高昆布の商いで大成功を遂げ、家産を築きました。場所請負人とは蝦夷地特有の流通制度で、松前藩の家臣から交易権の代行を許された商人のことですが、とくにアイヌとの交易で一部の悪徳商人が幅をきかせ、暴利をむさぼったり、アイヌを弾圧したことなどから、やがては廃止されることになります。

杉浦は天保14年（1843）、与七の長男として生まれ、恒次郎と名付けられました。6歳のとき父が亡くなり、祖父の家業・福島屋を継いでいた井原忠三郎の養子となり、そののち松前藩の士籍を受け継ぎ俸禄を得る身分となります。漢学を学び武士としての教育を受けますが、生来、質素倹約を旨としたものの健康にすぐれなかったため士籍を返還し、商人として家業を受け継ぐことになりました。そして慶応2年（1866）、家督を譲られ、名を嘉七と改めました。

ここから前記の話につながっていくわけですが、住民の要望で私財をなげうって実施した西浜海岸埋め立ては翌年10月に完成し、嘉七の希望でここは幸町と命名されました（のち昭和40年に住居表示変更で弁天町となります）。

これ以後、嘉七の活動はめざましく、明治8年に函館区民の教育のために置かれた学務世話係の一員に任命され、翌年6月には自宅を校舎に提供して内澗学校を開校し、当初は自ら出勤して学務に携わりました。10年には北溟社なる印刷所を創設し、ここを母体に翌年「函館新聞」を発刊します。これは北海道では初めての民間の手になる新聞でした。


函館古地図

さらに北海道全体の殖産に資そうとする開拓使の意向で、当時の北の経済の中心地である函館に国立銀行の設立が計画され、村田駒吉、田中正右衛門らとともに創立に参加し、12年に第百十三銀行が開業します。杉浦はその初代頭取となり、22年には会頭となりました。この銀行はのち、私立銀行時代をへて昭和3年に北海道銀行（のちの北海道拓殖銀行。現在の北海道銀行とは無関係）に合併されました。

明治13年に函館区役所が設置されると戸長6人の1人に選ばれます。29年に実業界を引退して隠居となり、悠々自適の余生を送り、大正12年鎌倉で81歳の生涯を閉じました。明治維新の渦中にありながら、家業の改革を断行、時代の変化に巧みに順応し、近代化の波を乗り越えながら、函館の発展に尽くしたその一生は見事といえましょう。

なお、3代杉浦嘉七の4男の孫、杉浦茂氏が2004年に私家版で『杉浦嘉七　4代物語』を出版していますが、今回は残念ながら参照できませんでした。

早すぎた同郷の作家
佐藤泰志の生涯

東川会会長　松田　州平

僕は映画が大好きで、たびたび横浜下町の映画館「ジャック＆ベティ」に行く。

先日、作家佐藤泰志のドキュメンタリー『書くことの重さ、作家佐藤泰志』を観て〝はて〟と考えさせられた。

近年、彼の作品『海炭市叙景』が映画になり、その街（函館市）で生きる人々の姿が力強く描かれた複数の挿話の交錯する物語は、かなりの評判を得た。しかし、同時代の村上春樹、中上健次らと並び評される実力を持ちながら文学賞に恵まれなかった。

その彼が1990年に、41歳の若さで（僕より10歳若い）自ら命を絶つとは！

僕の街（函館）自慢をぶち壊すなんて！と心の中で叫んでいたが、よく考えると〝こういう人生もありか〟と思える時代に彼も僕も生きて来たんだと、しみじみ思う。

佐藤　泰志

今は世界の3大夜景の一つなどと観光を売り物にしている函館も、僕の知りうる街の臭いは、馬糞臭漂う街だったのだ。戦後6年経った頃は、未だ当地にトラックはなく馬車で荷物を運んでいた。今でこそ〝ゆめぴりか〟なる米で日本一になったりしているが、僕の知る限り北海道には良質の米がなく、道内の皆は配給米以外〝ヤミ米〟を買って生活してきたのだ。今は、米の改良を重ねて、ようやく日本一の米もとれるようになり本当に夢のようだ。

作家佐藤泰志は、両親がこのヤミ米を青森で仕入れ、青函連絡船で持ち帰り、それを売る担ぎ屋をして生計をたてている家庭に生を受けたのだ。ヤミ米なので、時には警察のお世話にもなったような環境で育てられた。しかし、幼い頃より作文を書き、中学2年の文集に「芥川賞作家になる」と将来の目標を書いている。高校時代には、既に有島青少年文芸賞の優秀賞を2回受賞しており、ある有名作家が「なんという言葉の輝きか、10代でこれほどまでの早熟な才能を示した作家も多くは知らない」と言わせしめたほどの才能に恵まれていたようだ。

函館という街は、いろいろな可能性を秘めたアトラクティブなところのある街だ。だが僕の少年時代は、日本の中心（東京）への通信、交通手段が乏しく、若者の目はいつも東京を向いていた。彼も例外ではなく、東京の大学を卒業後からアルバイトをしつつ作家の道を目指し、1980年から85年にかけて計5回芥川賞候補となるも受賞は叶わなかった。

今回彼の一本の映画作品で、僕は当時の函館の街の様子を鮮明に思い出した。

敗戦後10年の歳月の重さ、世界の社会変革などで我々の生活様式もすっかり変わった。このような環境の中で、作家の思考も自ずと変化するものだと気づかされた。

僕と佐藤氏とは10歳の差がある。後に芥川賞を受章した辻仁成氏は、函館に関する小説で受賞したのだが、たかだか4年ほどしか函館に居らず高校も彼と同じとのことである。しかも、10歳の年齢差が両氏にはある。

佐藤氏は、20年も函館に住み、街のアカが沁み込んでいた。そして、芥川賞の立候補など考えていないのに、持ち上げられては落とされる屈辱を味わったのだ。だから、人が人を評価するその残酷さを示したこの映画のある場面の映像には、各賞のいい加減さを皆に知ら示したことになり、批評家たちが陳腐に見えて来た。

この映画は、最初暗いイメージだった。しかし、佐藤氏の生き方が理解できて見ると、彼の書くことが苦役であると同時に、生きることそのものだったと思う。

僕は、悲しくも美しい函館の街を象徴するような〝生きる〟だったことに、改めて気づき、彼の短い41年を惨めだとは思いたくない、と涕した。

お伊勢参り

道南会会員　川守田孝平

昨年10月、日本の八百万（やおよろず）の神々の頂点に立つ神様を祀る伊勢神宮で、20年に一度社殿を作り替える内宮、外宮の式年遷宮が行われ、周辺は祝賀ムード満点、大勢の参拝客で賑わったと報道されたが、その混雑が下火になった5月、家内とお伊勢参りの旅に出た。

伊勢神宮は、五十鈴川の辺りにある皇大神宮（こうたいじんぐう）（内宮）と、伊勢市駅傍の豊受大神宮（とようけだいじんぐう）（外宮）が中心で、神宮の参拝は外宮、内宮の順に詣でるのが慣習で、私たちもそれにならった。外宮表参道の入口に架かる、火除橋を渡ってまもなく御正宮（ごしょうぐう）がある。遷宮によって新しくなった社殿は四重の垣根に囲まれて、近くでは見ることができなかったが、今の時期は旧社殿が残っていて、真新しい社殿と苔むした旧社殿を比べてみることができた。

おかげ横町

内宮へはバスで移動した。入口となる宇治橋は御正宮の遷宮に先立ち、5年前に架けかえられたという。幅の広い橋の内側に立つ二つの大鳥居は、内宮、外宮旧御正殿の棟持柱（むねもちばしら）で作られるのが習わしになっている。内宮の旧社殿も遷宮半年ほどで解体されるが、まだ解体されずに残っている社殿が見られた。

再び宇治橋に戻り、内宮を後にして車道を渡ると、おはらい町とおかげ横丁があった。伊勢の名物と言えば餡子餅の「赤福」である。このおかげ横丁は赤福の社長が、「ここに住む者すべ

ての暮らしは、神様のおかげによるものと感謝し、その神様とお客様に対する思いから誕生した」商店街だと言う。

おはらい町は昔この辺り一帯が神職の住む町であり、その後神職が参詣者の先導を習わしとするようになった歴史から、お祓い町になったという由来があり、二つの町は江戸時代のおかげ参りの頃の、神宮界隈の様子を再現した町で、終日お伊勢参りを終えた人々で賑わっていた。私たちは二つの町を見物した後、志摩半島の海辺にある浜島温泉に向かった。

旅の2日目は、奈良、三重、和歌山3県に跨る大峡谷の「瀞峡」をジェット船で下り、本州最南端の潮岬まで足を延ばして大展望を楽しみ、大島を見渡せる串本のホテルに泊まった。3日目は日本3名瀑の一つ、那智の滝を見物、熊野那智大社と熊野本宮大社に参詣、南紀白浜温泉に宿をとり、夕陽が沈んで行く美しい風景を心行くまで眺めていた。

今回の旅の締め括りは高野山・奥の院巡りだ。弘法大師空海が開山し、真言宗の総本山として栄えて来た高野山は、佛都としての威容を見せてくれた。伊勢と南紀を駆け足で巡った旅は、天候に恵まれて無事終わった。

追悼・福津達男君のこと

三國比左男

彼を知ったのは、彼の兄の厚君が小中を通じてクラスメートで、しかも厚君の母上のところに習字に通ったからでした。

達男君は昭和25年函館高校卒業後、昭和33年まで吉岡小学校で教鞭をとり上京。種々の仕事に挑戦。教え子だった順子夫人と共に苦労を重ねながら、昭和44年建築・内装仕上工事業「創竜社」を設立。その間に武蔵野美大を卒業した努力家でした。

1年上の私は高校卒業後地元で就職。昭和33年東京勤務となり、道南会があることを知って入会。その親睦会に初めて顔を出した時、いきなり「ミクニさん！」と声をかけてくれたのが達男君だったのでした。

その後、私は転勤などがあり、昭和46年に東京へ戻り中野の社宅に入りました。

そこで達男君を思い出して創竜社に依頼して冷房装置を取り付けてもらいましたが、偶然にも福津宅が青梅街道を挟んで指呼の間にあることを知り、家族ぐるみの交際が始まりました。時々お宅にお邪魔し、順子さんの料理を馳走になりました。特にウニと鮑の潮汁が絶品で、残った汁を鍋ごといただいて帰ったりしました（正にスープの冷めない距離だったのです）。

福津　達男氏

達男君は、上京後、偶然同級の小泉君に出会ってから竹沢・二上両君等同期の輪を広げ同期会「東京玄羊会」を設立。会の発展ばかりではなく、昭和50年に函中同窓会本部から「旧制・新制合同同窓会」設立の要請を受け、新旧の取りまとめ役となって昭和52年11月白楊ケ丘同窓会東京支部の設立に貢献。引き続き役員として終生支部運営に尽くしたのでした。

昭和58年頃立派な体格の順子夫人が病に倒れ、達男君の献身的な看病の甲斐もなく昭和59年6月8日に亡くなりました。この日は奇しくも私の誕生日。忘れられません。

私は昭和61年末退職予定で家探しをし、現在のマンションを決めたのですが、いざ引っ越しの時決めていたはずの部屋が替わっていて驚いた。家内が達男君と図って、より良い階の部屋に変え、クローゼット、食器戸棚、息子たちの部屋の棚、空調設備等々狭い部屋をお手のものの内装工事で使いやすく整えてくれていたのでした。

創竜社は交通至便な新宿1丁目の「御苑ビル」にあって、10人程の打ち合わせができるスペースがあり、同窓会・同期会等の打ち合わせに気前よく場所を提供してくれたばかりでなく、小さなキッチンで社長得意の料理を提供してくれることがありました。馳走にあずかった方々も多いと思います。中でもカレーライスは絶品でした。平成9年末、御苑ビルの改築のために立ち退くことになった時、新事務所の必要条件に打ち合わせスペースとキッチンを欠かすことができず、平成10年4月同1丁目の「葵ビル」に移転したのでした。

平成2年9月浦和市に住居兼事務所を新築移転し、平成24年創竜社も入りました。

平成19年6月、達男君は体調を崩し、検査の結果胃がんが見つかり、8月に手術を受けましたが患部の関係で完全摘出できず、一部を削って放射線照射を繰り返すことになってしまった。当方も老々介護の状態となって中々見舞えず、道南会で顔を合わせる度に「元気だよ」と言うが、背が低くなっていて心配だった。

平成25年9月の道南会で力強い握手を交わしたが、10月の白楊ケ丘同窓会東京支部懇親会には姿がなかった。今年の年賀状に「肝機能低下のため閉塞性黄疸で緊急入院し、手術5回中々良くならない」とあって驚く。そして、4月27日。

以前家内が順子さんの墓参りをしたいと言って、達男君に連れて行ってもらったことがある。飯能の広い墓地の上の方に広い敷地の中に順子さんの墓が寂しそうに建っていた。待つこと30年、漸く比翼となれたのだ。大変お世話になりました。ありがとう。

合掌

ふるさと会だより

「東京かみのくに会」総会・懇親会

道南会会長　薬袋　泰

「第17回東京かみのくに会定期総会・懇親会」は平成26年3月29日（土）、ホテルパークサイドで11時30分より来賓・会員及び関係者84名が出席して盛大に開催されました。

総会議事は倉谷 久会長より25年度活動報告並びに決算報告があり、特にAED（自動体外式除細動器）・緑化協力等の挨拶の後、ご来賓の上ノ国町工藤昇町長より、ふる里の現況、特に風力発電に注力し、また、過疎化に伴う諸施策について紹介され、若い者が安心して住める町、暮らせる町を目指して町政に取り組んで行く旨の挨拶がありました。

続いて若狭大四郎議長の挨拶の後、ご来賓の方々が紹介され、疋田英夫総務課長より「上ノ国町ふるさと寄付制度」についての説明と協力要請があり、第1部の総会が終了した。

懇親会は、檜山漁業組合市山亮悦理事長の乾杯発声により祝宴に移る。会場では故郷の映像が映し出され、町の状況に見入っていた。お楽しみ抽選会で盛り上がり、舞台では歌謡ショー、カラオケが演じられ、会場は大変な盛り上がり。

また、ふるさと、北国の春の合唱、上ノ国音頭を歌い踊り、会場は更に盛り上がりを見せ楽しいひとときを過ごされました。

「東京ふるさと七飯会」総会・懇親会

道南会会長　薬袋　泰

平成26年「東京ふるさと七飯会」の第25回定期総会・懇親会は4月5日（土）正午、上野公園の創作中国料理「旦妃楼飯店」で開催されました。初参加の方3名を含め25名の会員が出席されました。

ご来賓として、郷里七飯町から馬場修一副町長（中宮町長は町長選出馬のため欠席）が出席され郷里の現況等を報告され、特に、北海道新幹線が28年春に開業すること、大沼のラムサール条約登録湿地に伴い観光産業の振興や地域経済の活性化等々について報告されました。

また、ご来賓の北海道道南会副会長島田瑞子様、東京大沼会代表澤出重雄様のご挨拶の後、境 勝美幹事の乾杯により祝宴に移り、ふるさとのワインで喉を潤し、和気あいあいの語らいが続き、楽しいひとときを過ごし、みんなで「ふるさと」を合唱。ふるさと七飯町を想い、故郷のお土産を手に散会されました。

「東京奥尻島人会」総会・懇親会

道南会会長　薬袋　泰

「第41回東京奥尻島人会総会&新春懇親会」は、平成26年4月13日（日）グランドヒル市ヶ谷「2F白樺の間」で、13時より104名（会員79名、来賓25名）が出席して盛大に開催されました。

総会では、和田穂積会長より、「北海道南西沖地震災害奥尻島20周年追悼式典慰霊祭」、室津祭に参加等々の活動報告の後、田中敦司副町長など、ご来賓の方の祝辞が続き、麓敏也議長の乾杯のご発声により祝宴に移った。

奥尻島のPR映像が映し出される中、特産品の販売が行われた。舞台では、新人演歌歌手の宮崎佳子さん、マジックショーのHiroさん、西海谷和雄一の杉本武志さん、民謡歌手鎌田英一さんと鎌田会の皆さんにより、それぞれ披露され会場は盛り上がり更には、奥尻珍味プレゼント抽選会で会場は更なる盛り上がりを見せ、再会を確かめあって散会した。

東京奥尻島人会では、昨年に引き続き、今年も池袋サンシャイン文化会館で開催の全国離島フエア〝アイランダー2014〟で島人会役員、会員が全面的に協力し物産販売に参加します。

また、7月の奥尻島室津祭りには、今年も参加ツアーを計画、募集します。

同窓会の活動状況

◆関東青雲同窓会（函館東高校同窓会・新山春一会長）創立30周年記念式典
5月31日（土）16時
ホテルグランドアーク半蔵門
140人

◆大谷高校同窓会
6月1日（日）
シーサイドホテル弥生
20人

◆東京東川会（函館市立東川小学校同窓会・松田州平会長）
6月14日（土）13時
ライオン銀座店　60人

◆東京函商同窓会（函館商業高校同窓会・汐谷　進会長）
6月28日（土）16時
第一ホテル両国　131人

◇函館工業高等学校同窓会
10月18日（土）
ホテルラングウッド

◇幸小・常盤小・船見中合同同窓会
11月1日（土）13時
東海大学校友会館

◇白楊ケ丘同窓会東京支部（函館中部高校同窓会安田康次会長）
11月8日（土）12時
ホテルグランドアーク半蔵門

26年新年総会・懇親会

平成26年の北海道道南会の新年総会・懇親会は、2月15日（土）13時より、東京都荒川区東日暮里のホテルラングウッドで、来賓・関連団体・会員など83人が出席して行われた。

この日は、前夜からの大雪が残り、積雪が20㎝以上あり、都内の交通機関の多くがマヒして運休や間引き運転などをしていたため、出席を予定していた方で急遽欠席された方が非常に多かった。

新年総会は、島田瑞子副会長の司会で行われ、最初に、薬袋泰会長が「昨年の総会で会長に選任されて無事に1年を経過した。今年も引き続き会員の皆さんのご協力を得ながら道南会の一層の発展に努力したい」と年頭のあいさつを述べた。

次に、総会に移り、薬袋会長を議長に選出して議事に入った。

最初に、25年度業務報告・26年度業務計画を三村寿雄副会長が、次いで25年度決算報告を続薫常任幹事が、新山春一監事が監査報告を行い、いずれも原案通り満場一致で承認され、総会を終えた。

この後、懇親会に移った。最初に薬袋会長が「来年が道南会創立55年にあたる。今年はそれに向けて、いろいろな企画を立てたいと考えている。今後とも道南地区の発展に貢献したい」と挨拶した。

次に、来賓として出席された工藤壽樹函館市長、布谷朗同市観光コンベンション部長、大泉潤同市秘書課長、横山敬一同市観光コンベンション部主査、森隆信、北海道ふるさと会連合会長、佐藤哲雄北海道東京事務所副所長、手島孝雄サッポロビール統括営業推進部長、玉島行規ＡＩＲＤＯ東京営業支店主査の８人を紹介した。

来賓を代表して、工藤市長が「世界的に異常気象と言われているが、函館近海の海水温が上昇し、鮭やイカがとれなくなっている。少子高齢化の影響で函館の人口は毎年３，０００人位減少し、28万人を下回った。人口減の原因は若い人たちが大学進学や就職などで函館を出て、戻って来ないことと、毎年の出生が少ないことがある。

函館で一番人口の多い年齢層は65歳以上で、20歳は２，３００人、０歳児はわずか１，３００人しかいない。

これを打開するために経済再生に取り組もうと考えている。

昨年は、函館出身のロックグループ〝グレイ〟の野外公演を行ったが、２日間で５万人以上の来場者があった。また、松風町・大門地区で全国各地のお店が参集して〝函館グルメサーカス〟を行って多くの人に参加していただいた。

函館を訪れる観光客はピーク時には５３０万人あったが、東日本大震災や福島原発事故の影響で４１０万人

まで落ち込んだが今年度は470万人まで回復できそうだ。ことに台湾からの観光客が年間17、8万人来ているほか、東南アジアからの観光客も増えている。さらに大型客船の来航も多く、船を利用した観光客が今年は17隻・7万人の予定。なお、2年後には北海道新幹線が函館まで来るが、函館と青森、弘前、八戸の4市で協力して観光開発を行うべく検討している。また、新幹線の開業へ向けて函館駅前から五稜郭までの中心市街地の再開発に取り組んでいる」と函館市の近況報告を含めてあいさつした。

この後、森北海道ふるさと会連合会長が「私にとって函館は本州に渡る時の通過点で、北海道の玄関口。今度の新幹線の開業で再び北海道の玄関口になって欲しい。函館が元気になることが北海道の元気の源になる」述べて乾杯し懇親会に移った。会場内には函館市の観光ポスターが多数貼られて雰囲気を盛り上げたほか、会場内の各所では函館弁が飛び交う中、賀詞交換や挨拶が交されていた。

懇親会の中で、4人の新入会員（別掲）を紹介した。

今年の懇親会のアトラクションは、一矢師匠の相撲漫談と相撲甚句、拍子木を使っての軽妙な話芸と函館や北海道の話題を取り上げて会場を盛り上げていた。また、歌手ではこだて観光大使の池田さなえさんが持ち歌の「函館ステップ」を熱唱。盛んな拍手を受けていた。

恒例の福引抽選会では、函館市とサッポロビール、観光コンベンション協会、会員有志などから提供されたワインや五島軒のカレー、チーズケーキ、宮沢賢治作品集のCDセット、マンモグラフィーの診察券、脳ドック無料受診券など多数の景品が用意され、賞品が当たる度に各テーブルから歓声が上がるなど、会場内は大いに盛り上がった。

抽選会の余韻が残る中、道南会の応援団長の高橋順吉さんが音頭を取って全員で函館市と道南会への応援と会員の健勝を祈念してエールを送った。3時30分過ぎ、三村副会長が閉会の挨拶を述べ、次回の再会を約して閉会した。

なお、参加者にはお土産として、函館塩ラーメンが配られた。

新入会員紹介

（　）内は出身小学校

◆安保咲子
（西小・1年時弥生小）
三村寿雄副会長の紹介

◆井上千春（鹿部小）
島田瑞子副会長の紹介

◆岩井久江（七飯町・藤代小）
島田瑞子副会長の紹介

◆佐々木清一（万年橋小）
松村　茂氏の紹介

◆永井　均（若松小）
三村寿雄副会長の紹介

◆横井　透（柏野小）
沼崎貞良相談役の紹介

平成26年度 懇親会出席者

【来賓】

※函館市長　工藤壽樹
※函館市総務部秘書課長　大泉　潤
※函館市観光コンベンション部長　布谷　朗
※函館市観光コンベンション部主査　横山敬一
※北海道ふるさと会連合会長　森　隆信
※北海道東京事務所副所長　佐藤哲雄
※サッポロビール㈱
広域営業本部
法人営業統括営業推進部長　手島孝雄
※㈱AIRDO
東京営業支店主査　玉島行規

【参加者】

浅田和幸、安達昌子、安保咲子、飯坂史博、池田さなえ、石戸六男、泉　龍夫、井上千春、井上善子、沖山雅子、笠川雅彦、金本慎郎、川瀬俊吉、川守田孝平、川守田礼子、工藤弘子、工藤正昭、窪田恭子、郷内　繁、小助川昭一、小林由香、小林嘉則、小山敦子、小山和彦、坂本保子、佐々木豊子、汐谷　進、柴崎貴子、島田瑞子、新谷和子、新谷義克、神　れい子、菅原大作、鈴木栄子、須藤珠実、千住照平、高橋厚子、高橋順吉、千歳芳充、続　薫、敦澤義彦、富岡信夫、鳥本玲子、中川和彦、中村　崇、永井　均、長島　康、納代鉄也、楢木久澄、成田きよえ、成田慶子、新山春一、沼崎貞良、沼崎茂子、根来美和子、花木　瞳、原　ヒエ子、比嘉裕子、檜森兄元、福地史人、古井勝春、本間和吉、本間作喜、松浦和彌、松田州平、松村　茂、松永幹男、三品真紀子、薬袋泰、南谷光一、三村寿雄、森本貞子、山田克明、山本久子、横井　透、吉野俊郎、渡部良孝

訃報

河口　義男さん
平成24年11月　死去　90歳

菅　愛子さん
平成26年4月20日
がんで死去　77歳

福津　達男さん
（顧問）
平成26年4月27日　死去
83歳

謹んでご冥福をお祈りします。

平成25年度収支報告書（自平成25年1月1日至25年12月31日）北海道道南会

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越高	664,924	行事費	2,301,757
年会費	562,500	通信費	189,230
行事　会費	2,195,500	印刷費	256,480
寄付金	56,000	消耗　品費	95,427
広告協賛金	102,000	交通費	206,440
雑収入	38,100	会議費	45,091
受取　利息	145	会費	10,000
前受金	36,000	交際費	157,868
		支払手数料	21,220
		前受金	138,000
		次期繰越高	233,656
合計	3,655,169	合計	3,655,169

次期繰越金内訳	
現金	￥93,745
普通預金	￥139,911
振替口座	￥0
合計	￥233,656

監査報告書

平成２５年度決算報告書について、帳簿及び証憑書類を監査した結果、適正かつ妥当に処理されていることを認めます。

平成　26年　2月　10日

北海道道南会
会計監査　新山春一

道南会行事報告

☆「26年新年総会・懇親会」（別掲）

2月15日（土）
午後13時開会
荒川区東日暮里
ホテルラングウッド

☆足立区舎人公園でのお花見

4月4日（木）

日暮里・舎人ライナーの舎人公園駅に午前11時に集合。

この日は、前夜からの雨が残り、小雨が降り続くあいにくの天気。当初27人の参加申込がありましたが、雨を嫌ってかキャンセルが相次ぎ、結局18人が参加しました。

傘を差しながらのお花見となりましたが、遊歩道の両脇に植えられている桜はちょうど満開で、雨に当たっても散ることはなく見事に咲き競っていました。なお、ここの桜は足立区民が抽選で自分の木を持つことができるということで、会員で足立区在住の吉野俊郎さんもご自分の桜の木に付けられたネームプレートに奥様の名前と一緒に書いてあり、一目で分かるようになっていました。

駅から歩いて10分程の小さな丘の上の「夕日の丘売店」まで行き、屋根のある売店のテーブル席に腰を落ち着けて持ち寄った食べ物や飲み物などを広げてしばし歓談しました。売店にはおでんや焼きそばなど食べ物のほか、ビールやお酒、おつまみなども売っていて手ぶらでお花見を楽しむことができるようになっていました。歓談の中心の話題はやはりふるさと・函館のこと。特に来年度末に開業する北海道新幹線の駅名が「新函館」となるか、北斗市が提案している「北斗函館」になるのかなどの話に盛り上がっていました。

なお、ここの丘は、舎人ライナーの車両基地が半地下構造で作られていて、車両基地の上に盛り土をして草花や木を植えており四季折々の花々が楽しめると同時にお花見広場には芝生があって天気が良い日には広場で歓談できるとのことでした。

午後2時過ぎに記念写真を撮って、自由解散としましたが、もう少し話したいということで、舎人ライナーで日暮里駅まで戻り、残った16人で駅近くの焼き鳥店で2次会となり、焼き鳥やおつまみなどを肴に歓談を続けました。

☆葛飾区堀切菖蒲園の散策

6月6日（金）

午前11時に、京成線の堀切菖蒲園駅に集合。17人が参加して駅から徒歩10分程の堀切菖蒲園へ行き、園内で満開の菖蒲の花を堪能しました。

この日は、関東地方が前日の5日に梅雨入りしたためあいにくの雨。そして朝早くから小雨が降り続いていたためか、最初は24人の参加申し込みがありましたが、雨を嫌ってのキャンセルが相次ぎ、参加者が大きく減ってしまいました。

園内には、約２００種、６，０００株の花菖蒲がちょうど見頃で、傘を差しながら菖蒲を観賞しましたが、雨に濡れた花々は大変風情がありました。

堀切菖蒲園の花菖蒲は、江戸名所の一つとして古くから知られており、その景観は安藤広重や歌川豊国らの錦絵の題材にもなったとのことです。花菖蒲がこの地に伝来した時期は明らかではありませんが、一説には文化年間（１８０４～１８１７）に当地の農民・伊佐衛門によって栽培されたのが始まりと言われています。

グループに分かれてそれぞれ菖蒲を観賞した後、園内の入口近くの休憩施設「静観亭」で、早めの昼食としました。

静観亭では、ビールや清涼飲料水などを各自注文して、乾杯を行った後、それぞれが持ち寄ったお弁当や総菜などを食べながらしばし歓談しました。話題の中心はやはりふるさと・函館のこと。小さい頃の思い出話や最近の函館の様子などで盛り上がっていました。

午後1時30分過ぎに記念撮影し、自由解散としましたが、もう少し話したいということで日暮里駅まで戻り、残った13人で駅近くの焼き鳥店で2次会となり、焼き鳥やおつまみなどを取って歓談を続けました。

編集後記

◎先日の台風8号は、過去に経験したことのない大型で、強風と大雨の被害を各地にもたらしました。

◎今年の道南会の各行事も、2月の新年総会・懇親会の際には、都心でおよそ30㎝もの積雪があり、交通機関が乱れて運休やダイヤ乱れて大混乱し、当日キャンセル者が相次ぎました。また、4月のお花見も雨。そして、6月の花菖蒲を楽しむ会でもやはり雨。それでもお花見と花菖蒲の会ではともに、屋根のある場所で歓談をして楽しむことができました。

◎いろいろな行事が天候に左右されますが、〝花より団子〟を楽しめればと考え、今後も企画したいと思っています。

会報「道南」
26年・夏号・通巻60号
発　行　平成26年8月1日
発行所　北海道道南会事務局
茨城県取手市西
1-6-C-907
薬袋　気付
印刷所　富士製版印刷㈱
世田谷区下馬4-17-17